Attitudes towards low fertility and family policy in Japan
Miho Iwasawa
Partnership transition in contemporary Japan: Prevalence of childless non-cohabiting couples

23日（金）
Session 9:　座長: Chris Wilson
Makato Atoh, Vasantha Kandiah and Serguey Ivanov
The second demographic transition in Asia: Is it similar to or different from that in Western Europe?
Zhongwei Zhao
Low fertility in Urban China
Mohammad Jalal Abbasi-Shavazi
Below replacement-level fertility in Iran: progress and prospects

Session 10:　座長: Peter McDonald
David Coleman
Discussion and synthesis

（岩澤美帆記）

第66回アメリカ人口学会年次大会

アメリカ人口学会（Population Association of America）の2001年大会が３月29日から31日までワシントン，D.C. にて開催され，本研究所から佐藤隆三郎，岩澤美帆，小松隆一が参加した．リプロダクティブヘルスに関するポスターセッションで，佐藤・岩澤は“Contraceptive use in Japan: 1987-1997”を発表した．

本年の年次大会では高齢化や少子化，人口の将来推計など政策上重要なテーマの研究が150ほどに分かれた口頭発表のセッションや６種類に分類されたポスターセッションを中心に多数発表された．将来推計に関するセッションでは Lee and Carter の方法を出生率に応用した研究（Li and Tuljapurkar）とオーストラリアの死亡率に適用した研究（Booth, Smith, and Maindonald）がとりわけ目を引いた．その一方で，アフリカで AIDS による死亡が突如深刻になった現実に対処するためのモデル生命表的アプローチの必要性（Heuveline）や，様々な外的要因を考慮した統合アプローチについての演題（Hilderink）も推計のセッションで発表された．Lee and Carter の方法が様々なところで応用されているが，それはあくまでも過去の推移にもとづく予測の方法である．その方法自体にも探究すべき点があるし，外的要因を将来推計にどう取り入れるかといった大問題もある．そのためセッションの議論は非常に白熱し，後続のセッションが始まるまで熱気は冷めなかった．

また，大会期間中には，国連による世界人口の将来推計の2000年改訂についての説明会も開催された．全体としては出生率・死亡率ともに楽観的な見通しであるが，2050年の世界総人口は中位推計で93億人になり，それまでに日本をはじめ39ヶ国で人口が今日より減少していると推計されている．バングラデシュ，インド，ナイジェリアなどいくつかの国では出生率の低下がこれまでの見通しほど楽観的ではなくなっている．

（小松隆一記）